

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成26年10月16日(2014.10.16)

【公開番号】特開2014-158560(P2014-158560A)

【公開日】平成26年9月4日(2014.9.4)

【年通号数】公開・登録公報2014-047

【出願番号】特願2013-30246(P2013-30246)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

【手続補正書】

【提出日】平成26年8月25日(2014.8.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技を行うことが可能な遊技機であって、
前記遊技機の背面側に設置される複数の電気部品と、
前記複数の電気部品を電氣的に接続する配線と、
回路基板を収納する第 1 部材及び第 2 部材からなる基板ケースと、
前記第 1 部材と前記第 2 部材とを封止状態とするために用いられる封印シールと、
を備え、
前記封印シールは、
該封印シールの粘着力を低下させるために所定の溶剤が用いられたときに変化する溶剤
使用部を有し、
前記基板ケースに貼付されたときに前記配線と重ならない部分に前記溶剤使用部が配置
されている
ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 1】

本発明は、遊技を行うことが可能な遊技機に関する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 5】

そこで、この種の回路基板を、ベース体（第 1 部材）とカバー体（第 2 部材）とからなる基板ケースに収納するとともに、封印シールを貼付することにより開封された場合にはその痕跡が残るように封止状態とすることで、回路基板に不正行為が行われた可能性があ

ることを容易に発見することができるようにしたものがある。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

前記課題を解決するために、本発明の請求項 1 に記載の遊技機は、

遊技を行うことが可能な遊技機（例えば、スロットマシン 1 / パチンコ遊技機 1001）であって、

前記遊技機の背面側（例えば、筐体 1a の内部 / パチンコ遊技機 1001 の背面）に設置される複数の電気部品（例えば、各種スイッチ、センサ、ソレノイド、モータ、LED 等）と、

前記複数の電気部品を電氣的に接続する配線（例えば、ケーブル 600a ~ 600c、600k / ケーブル 1700）と、

回路基板（例えば、遊技制御基板 40 / 主基板 1031）を収納する第 1 部材（例えば、ベース部材 201 / ベース部材 1201）及び第 2 部材（例えば、カバー部材 202 / カバー部材 1202）からなる基板ケース（例えば、基板ケース 200 / 基板ケース 1200）と、

前記第 1 部材と前記第 2 部材とを封止状態（例えば、基板ケースが開封されたらその痕跡が残るように閉鎖した第 2 封止状態）とするために用いられる封印シール（例えば、封印シール 400 / 封印シール 1400）と、

を備え、

前記封印シールは、

該封印シールの粘着力を低下させるために所定の溶剤が用いられたときに変化する溶剤使用部（例えば、所定の剥離液と接触することにより該剥離液に溶解する特殊インクにて印刷形成された溶剤使用表示部 450A ~ 450D / 溶剤使用表示部 1450A ~ 1450D）を有し、

前記基板ケースに貼付されたときに前記配線と重ならない部分に前記溶剤使用部が配置されている（例えば、図 14 に示すように、封印シール 400 は、基板ケース 200 に貼付されたときに、遊技制御基板 40 の基板側コネクタと配線フック HF やリール中継基板 120 等の配線保持部とを結ぶ直線に重ならない位置またはその近傍位置に配置されている / 封印シール 1400 は、基板ケース 1200 に貼付されたときに、主基板 1031 の基板側コネクタと配線挿通部 1750 等の配線保持部とを結ぶ直線上に重ならない位置またはその近傍位置に配置されている）

ことを特徴としている。

この特徴によれば、溶剤を使用して封印シールの粘着力を低下させようとした場合、該封印シールの溶剤使用部が変化することで、溶剤を使用して封印シールの粘着力を低下させようとしたことがわかるようになるため、溶剤により剥離した封印シールを再度貼付するといった不正行為を抑制できるとともに、溶剤使用部が配線により隠れてしまうことがないので、溶剤使用部の視認性が損なわれることが防止される。